



がんばろう会津！！

会津 檜枝岐歌舞伎&会津駒ヶ岳

今井

【日時】 2011年4月9日(土)～10日(日)

【メンバー】L 田辺、大田原、佐藤、佐貫、棚橋、古野、今井、他1

トマに折角入会したものの、直後に起こった大震災の為、全ての山行は自粛となってしまった。というより私自身被害はなくても精神的ダメージが強く、しばらくは山へ行く気持ちになれなかった。そして地震発生からひと月が過ぎた頃、入会して初めて本格的な山行に参加した。この山行のキャッチフレーズは「がんばろう会津！」270年の歴史があり国指定重要有形民俗文化財にも指定されている檜枝岐歌舞伎を鑑賞して民宿に泊まり、雪深い会津の山スキーを楽しもう！という企画であった。

1日目は雨の予報。朝出でゆっくり檜枝岐へ向かう。昼食に耕至さんが「朝出の時でないとならば食べられない！」(営業時間が昼3時までの為)という塩原名物のスープ入り焼そば(略してプ入り)を食べることになった。最初に寄った店ではなんと小雨の降る中、店の外で待っている人もいる程。期待は高まる。2軒目の「こぼや」はガラガラだったので入店。味はまさにソース焼そば味のラーメンとでも言った所か？皆さんは何とも微妙な表情だったが、私はなかなか美味しいと思った。だんだんソースの甘みが増してくるので、唐辛子入りお酢を加えると2度美味しいといった所。絶賛しすぎかな・・・^^;

昼過ぎに檜枝岐へ到着。各自、民宿の座布団を抱えて村の体育館へ向かう。檜枝岐歌舞伎は毎年5月と9月に野外で催されるのだが、今回は発表会ということで村の体育館で開催。体育館といっても立派なコンクリート造の建物で、木の内装が施され絨毯敷きの立派なホールだった。出店が出て、村民手作りのおつまみ「漬けたらし」を買った。漬物とイカげそを小麦粉と一緒に焼いた郷土料理でビールとよく合ってとても美味。



歌舞伎は2話上演された。正直いってストーリーはあまり理解してなかったが、22歳の若手義太夫の弾き語りにはスゴイ迫力だったし、プロ顔負けの演技からは「人情」が伝わってきて、豪華な衣装を次々と5回位変えたりと次々と変わる展開に十分楽しめた。お土産に特製Tシャツを戴いた。背面

には福島県の地図の上のでっかく「がんばろう福島」と書かれていた。まさに今回の山

行のキャッチフレーズではないか！

この後民宿に戻り、山人料理といわれている様々な料理（山菜、きのこ、岩魚、サンショウウオの天ぷら、シカ肉、裁ちそば）を堪能し、男性陣はその後も部屋で飲んでたみたいだけど、女性陣はそのまま布団にバタンキューだった。

2日目、空は晴れ渡り無風の絶好のスキー日和。土曜日勤務だった大田原さんも合流して、シールを装着して担いで出発！お世話になった民宿こまどりは会津駒の登山口のすぐそばなので便利だった。登山口から雪がついていたのでスキーを履き、下ノ沢の橋を渡って尾根に取りつく。しばらく登ると林道に出た。左側の沢を登り1350位で電波塔のある夏道の尾根に合流した。尾根に上がると傾斜は緩やかになり一面の気持ちいいブナ林。ひたすら黙々と登る。1950位まで登ると前方の展望が開けてきて、南側にV字型の双耳峰の燧岳、北西に尾雄大でなだらかな斜面の会津駒ヶ岳が見えてきた。駒の小屋を経由し、ひと登りで山頂到着！山名が書かれた柱みたいのがあったはずだが見当たらなかったのだからまだ雪の中なのだろう。空は少し霞んでいたけれど360度の素晴らしい眺め。

燧岳、至仏山、平ヶ岳、会津朝日の奥にひとときわ高く見えた山脈は飯豊だろうか？早速シールを外し、滑降開始！正面にそびえる燧岳に向かってどんどん滑り降りていく。皆さんカッコいいなあーとカメラを取り出した時には誰もいなくなってしまった。やばい、取り残される！慌てて滑り始める。



山頂付近は快適なザラメだったけど、どんどん重くなってくる。おまけにワカンの跡が非常に滑りにくいということで、1670辺りから尾根を外れ、北側の沢を滑ることにする。これが試練の始まりであった。とにかく重い雪でターンが出来ない。板を取られてすぐにコケてしまう。随分待たせてしまい申し訳ないなあと思いながらも、重い雪と戦いながらひたすらボーゲンで地道に下った。下の沢出合直前で沢の傾斜が緩く広くなり、のびのびと滑っていたら、直前で3m位の崖になっていることに気づき、慌てて手前でコケて滑落せずにすんだ。真っ白なので遠目には全く分からなかった。要注意である。

へろへろになりながらも下ノ沢出合に到着。後は林道をひたすら滑り登山口へ戻った。

【行程】会津駒ヶ岳登山口（7:50）－ 1350 電波塔付近（8:50～9:10）
－ 会津駒ヶ岳（11:50～12:15）－ 登山口（14:10）

【地図】会津駒ヶ岳、檜枝岐